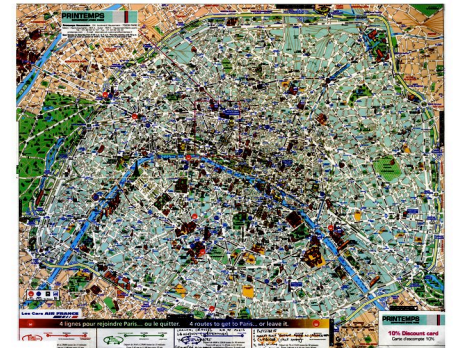


パリの観光地図に手を加えた、ドローイング作品。

パリの「ヨーロッパ地区」と呼ばれるエリアには、別の都市の名を冠した道が多くある。ロンドン通りを歩くとダブリン広場に辿り着き、右に曲がると Санктペテルブルク通りにいる。パリには他にも、別の都市や地域、国、山や川などの地理的な場所の名前のついた道や広場に溢れている。イタリアの街やアフリカの国々の名は多く目につく。第二次世界大戦中にベルリン通りからリエージュ通りに変更された後、その元の名に戻ることはなかった。 Санктペテルブルク通りは、そのロシア/ソビエトの都市の名が変わるごとに、ペトログラード通り、レニングラード通りと名前を変えてきた。フランスの歴史上の関係や、心理・物理的距離を反映しているかのようだ。

パリの観光地図の上にトレーシングペーパーを載せて、いくつかの区画の輪郭だけを辿って描いた。これらの区画はその境界によって、世界の別の地理的な場所に因んだ名を持つ通りや広場の輪郭を露にし、大航海時代の地図のように未完成で想像の余地を残す。視覚と音声による幻覚を映し出し、とある視点からみたもう一つの世界地図となっている。



(左頁)額装されたドローイング(右頁、上から)ドローイング詳細; 元となったパリの観光地図; 『Line by Line』展での展示風景



*A bird's view of the world. In Paris.*

2011年

ドローイング(設計用トレーシング紙にインク)/ドローイング・インスタレーション(設計用トレーシング紙、木製構造)

53 x 70 (x 85) cm

元は額装したドローイング作品であったが、グループ展『Line by Line』では補助的構造を用いて、窓から見える街の風景が溶け込むインスタレーションとして発表した。北向きの窓の側に設置することで、観客が南側から街を見れるようにし、地図上に見るものと、窓の外に見るものとを結ぶことができるようにした。

